

都市再生整備計画 事後評価シート
仁良川地区

平成25年3月

栃木県下野市

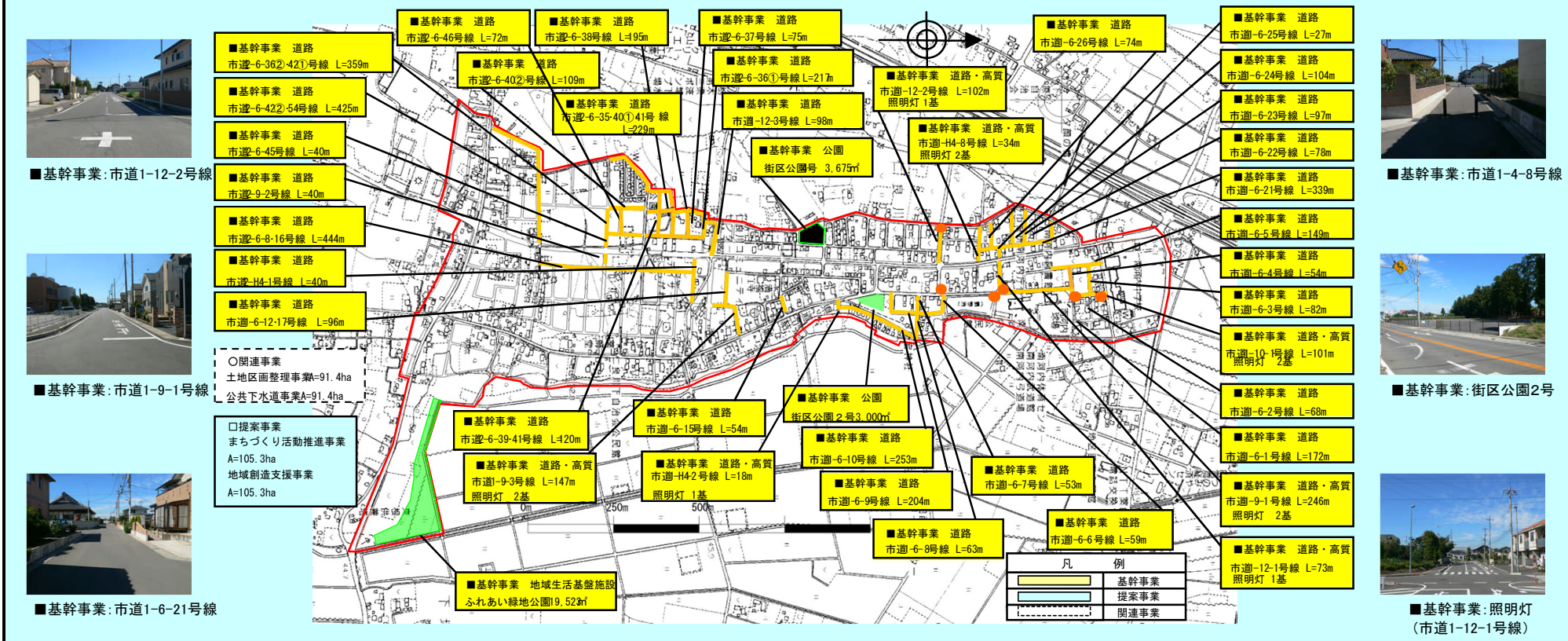
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	栃木県		市町村名	下野市		地区名	仁良川地区			面積	103.5ha	
交付期間	平成20年度～平成24年度		事後評価実施時期	平成24年度		交付対象事業費	1103.7百万円	国費率	0.400			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】市道1-12-1号線等(48路線) 【公園】街区公園2号 【高質空間形成施設】市道1-12-1号線等(7路線)									
		提案事業	【まちづくり活動推進事業】まちづくり活動推進支援									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【道路】市道1-6-1号線等(14路線) 【高質空間形成施設】市道1-H6-2号線等(3路線)			事業の進捗状況等を踏まえた見直しにより削除			指標1・2に関連するが、指標及び数値目標は据え置く			
		提案事業	なし									
	新たに追加した事業	基幹事業	【道路】市道1-12-3号線等(6路線) 【公園】街区公園4号 【地域生活基盤施設】ふれあい緑地公園			【道路】事業の進捗状況等を踏まえた見直しにより追加 【公園】【地域生活基盤施設】地区内の憩いの場及びコミュニティの場の確保のため事業追加			指標1・2・3に関連するが、指標及び数値目標は据え置く			
		提案事業	【地域創造支援事業】防犯灯設置事業、仮設住宅設置事業			地区内の安全・安心感の向上とともに、土地区画整理事業の推進を図るため事業追加			指標1・2に関連するが、指標及び数値目標は据え置く			
交付期間の変更	当初変更	平成20年度～平成24年度		-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-				
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	狭隘道路地区の解消	ha	52.29	H19	26	H24	26.0	○	あり なし	幅員4m以上の道路が整備されたことから、緊急車両の通行が容易になり、安全・安心な居住環境が形成された。また、道路整備により、住宅地内の自動車のすれ違いも容易になり、自動車の走行環境も向上した。	平成25年4月
	指標2	通学路上の危険箇所の解消	箇所	32	H19	16	H24	16	○	あり なし	主要な道路には歩道が整備されたことから、児童・生徒の通学路だけではなく、高齢者にとっても安全・安心な歩行環境が確保された。また、道路整備による見通しの悪い交差点の解消のほか、照明灯の整備による夜間の安全・安心感が向上した。	平成25年4月
指標3	公園整備による保護者の安心度	%	5.0	H19	35.0	H24	16.1	△	あり なし	道路や公園が整備され、公園へのアクセスや、安全・安心に遊べるスペースの確保という点での安心度は向上している。 しかし、公園内施設に対して、地域住民のニーズが満たされていないことから、満足度の目標値達成にはいたっていない。	平成25年9月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1	地区内の居住世帯数	戸	512	H19	/	701	/	/	土地区画整理事業により生み出された道路や公園のほか、ふれあい緑地公園が整備されたことにより、利便性・安全性の高い、良好な居住環境が形成されたことで地区内の世帯数が増加している。	平成25年4月	
その他の数値指標2	公園誘致距離内の建物棟数割合	%	63.4	H19	/	67.2	/	/	憩いの場やコミュニティの場としての機能を持つ公園のより至近に居住したいという願望により、地区内の公園の誘致距離内においては、地区全体の建物棟数の増加率よりも高く、地区全体に対する割合も増加している。	平成26年10月		
4)定性的な効果発現状況	*定住人口の受入の先導的施策である土地区画整理事業により、地区内の人口・世帯数は着実に増加傾向を示しており、地域の行事等において、新規居住者と地域住民との交流が図られている。											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-			
	住民参加プロセス	土地区画整理事業などのまちづくりに関する研修会や視察の実施			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も地区内住民の方々に、まちづくりに関する研修会等の情報提供を積極的に行う。			
持続的なまちづくり体制の構築	歩道や公園の管理について、自治会・育成会等地元組織が参加できる美化活動等の実施を検討。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 自治会・育成会等の既存の組織を通して、体制構築に向けた取組を行う。				

様式2-2 地区の概要

仁良川地区(栃木県下野市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値			
大目標: 良好な環境を有し、防災上および生活上、安全で安心なまちづくり 目標1: 生活道路の整備により、防災上安全性の高い、かつ利便性の高い市街地の形成を図る。 目標2: すれ違いのできる道路、歩道のある道路を整備し、通学の安全を図る。 目標3: 公園を整備し、地区住民の憩いの場所づくり、子供が安全に外で遊ぶことのできる場所づくりを行う。	狭隘道路地区の解消 単位: ha	52.29	H19	26	H24	26.0	H24
	通学路上の危険箇所への解消 単位: 箇所	32	H19	16	H24	16	H24
	公園整備による保護者の安心度 単位: %	5	H19	35.00	H24	16.1	H24



まちの課題の変化

- ・土地区画整理事業により、主要な幹線道路である都市計画道路やそのほかの区画道路が整備され、交通環境は機能向上している。
- ・土地区画整理事業により、幅員4m以上の道路が整備され、消防車や救急車等の緊急車両の通行が容易になるなど、安全・安心な居住環境が形成された。
- ・土地区画整理事業により、都市計画道路や主要な道路では歩道が整備され、安全・安心な歩行環境が確保された。また、道路整備による見通しの悪い交差点の解消のほか、照明灯の整備による夜間の安全・安心感が向上した。
- ・土地区画整理事業により生み出された公園(街区公園2号、街区公園4号)のほか、ふれあい緑地公園の整備により、地域住民の憩いの場、コミュニティの場としてのスペースが確保された。
- ・土地区画整理事業等により整備される公園に対する満足度の向上及び公園利用頻度の増加を図る必要がある。また、供用開始後の維持管理について、まちづくり協議会等の地域団体と連携を図った、恒久的なまちづくり活動体制の構築を図る必要がある。
- ・道路整備により走行性が格段に向上したことで交通量が増加し、結果、歩行者に対する危険性が増してきているため、道路未整備区間の早期完成と交差点内への横断歩道及び交通信号機の設置が急務である。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

- 【安全・安心で魅力的な居住環境の形成】
- ・土地区画整理事業により道路、公園等の都市基盤施設の整備を推進するとともに、備蓄倉庫や耐震性貯水槽等の地域防災施設の整備を推進し、安全・安心で魅力的な居住環境の形成を図る。
- 【地域住民主体のまちづくり活動の支援】
- ・地域のまちづくり活動が更に活発化するよう、まちづくり協議会等の地域団体と連携・調整を図りながら、地域住民が主体となったまちづくり活動(歩道・公園等の清掃・美化活動等)に対して様々な形で支援を行う。
- 【公園整備に対する満足度の向上】
- ・公園整備の満足度の向上や利用頻度の増加を目指し、地域住民の応分の負担により、住民と行政が一体となった公園づくりを推進する。
- 【交通安全対策の充実】
- ・道路整備による交通量の増加に伴う、歩行者等の安全性の向上を図るため、交差点内への横断歩道及び交通信号機等の交通安全施設の設置を進める。